

## 柏の景気情報（平成20年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成20年7月分）

○ 調査期間 : 平成20年7月17日 ~ 7月24日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	78	70.3%
建設	19	15	78.9%
製造	26	19	73.1%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	23	17	73.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年7月の調査結果のポイント】

《業況DIはマイナス50台へ転落、調査以来最低数値》

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.0(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲35.2(同▲47.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲43.7)、卸小売業▲70.3(同▲58.6)、製造業▲26.3(同▲22.2)である。

【建設業】では、「一般に仕事の量が少なくなってきた」(その他の職別工事業)、「本体業者の受注が減少している。ガソリン他の値上がりによって新築発注を控える傾向」(管工事業(さく井を除く))といった、受注減少の声の他、「すべてにおいて悪化してきている。ガソリン・他の(材料以外)経費にも影響があり、改善されるのか予想がつかない」(電気工事業)といったコメントが寄せられた。

【製造業】では、「今年も10月からの値上げアナウンスあり。気を引き締めてかかる」(紙製容器製造業)、「先月より一層鋳物鋼材の値上げ要求が多くなっている。当社の加工外注委託先情報として、以前に比べ仕事のい入り方が少なくなっている目いっぱい感は薄い。「宮城地震」の影響は当社では思ったほど出なかった」(その他の機械・同部分品製造業)などの原材料高騰の影響や受注減少のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「食品表示・産地偽装の問題は食品全体に大きな影響を与えていると思われる」(食料・飲料卸売業)、「必要不可欠な買物以外には財布を開かないようで、客単価が低くなっている。食料品等の値上がりが大きく影響しているようす。ガソリン価格の値上げも響いている」(花、植木小売業)といった声のほか、「周辺大型店の増床(予定)や出店の影響が「日曜雑貨手芸」用品の充実を図る店舗や、リニューアルを図るお店が多い(柏北西部)。一般の小売専門店もかなり厳しい状況。当社も小物グッズの販売が激減で厳しい」(その他の飲食料品小売業)「ここ1~2年の間に柏市内の書店の売場面積が3倍以上に増加、売上の減少傾向が止まらず」(書籍・文房具小売業)といった、周辺店舗との競争激化による影響の声も寄せられた。

【サービス業】は、「仕入れ単価の上昇による販売価格を上げるタイミングが難しい。高値でも早く安定してほしい」(食堂・レストラン)といったコメントや、「地域に同業店が多いため、店の特色や、内容で努力しているが、人手不足には大変苦労している。人材の低下、不足に大変苦慮している」(そば・うどん店)という声が寄せられた。また、「先月6月との比較は、宴会暑気払いの予約が増えた。ただし、前年とは若干だが、仕入れ等単価上昇があり。今回3月にメニュー改定において、ボリュームの見直し、アルコール類の値上げ等はお客様に理解されたと考えている」( )という、価格転嫁に関するコメントが寄せられた。

◎原材料原油高騰

各業種から「原油高騰のあおりを受け、一般的に景気は良くない。材料も少しずつ値上げ傾向になってお客様のご希望も良い品を安く、厳しい条件になりつつある。これからは「エコな家＝経済的な家」を目指す」(一般土木建築工事業)、「原材料価格の高騰の影響は大変大きなものになってきた。これからはきちんと商品の価値を伝える努力が必要に思う。また、小売業としてよりよい接客が求められてきている」(各種食料品小売業)、「ほとんどの材料が値上げ、洋菓子店はづらい」(菓子・パン小売業)、「原油価格の変化はすぐに影響のする業種ではないが、少しずつ材料等の価格や量に現れて来つつある。」(理容業)といった声が、多く寄せられた。

◎先行き不安

各業種から「マスコミ報道などにより、先行不安ということで、買い控え傾向がつよくなっているように思う。特に住関係、リフォーム等は計画して資金があるのに、将来の生活資金として使わない人が多いようである」(家庭用機械器具小売業)、「建築業界全体が設備関係も含めて暗黒の世界へ進み、中小企業が生きてゆく道が見えない状況となっていくのでは」(その他の設備工事業)、「人材の低下、不足に大変苦慮している先行に大変不安を感じている」(そば・うどん店)といった声が多く寄せられた。

◎購買意欲低下

主に卸小売業から「野菜・果実ともに、出荷コスト高、一方消費動向については、一般食品の値上げや、原油高により購買意欲が減退、先行き不透明感から、慎重姿勢が強まって足踏み状態が続いている。収益の悪化、最悪の状況である」(食料・飲料卸売業)、「気温が高く、見切りに入った夏物衣料品が多少売れているが、全体的には良くない。秋には大型店の開店(増床)があり、さらには、諸物価の値上がりが消費意欲を後退させており、先行き見通しが立たない」(その他の各種商品小売業)、「ガソリン高や値上げ等で個人消費が低迷している。消費者は必要な物しか買わない」(書籍・文房具小売業)、といった購買意欲低下に関するコメントが多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲44.4	▲52.9	▲10.5	▲61.2	▲42.8
3月	▲40.5	▲57.1	▲22.2	▲54.8	▲18.7
4月	▲41.9	▲38.4	▲20.0	▲54.8	▲47.0
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
見通し	▲47.4	▲40.0	▲31.5	▲59.2	▲52.9

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.0(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大した。

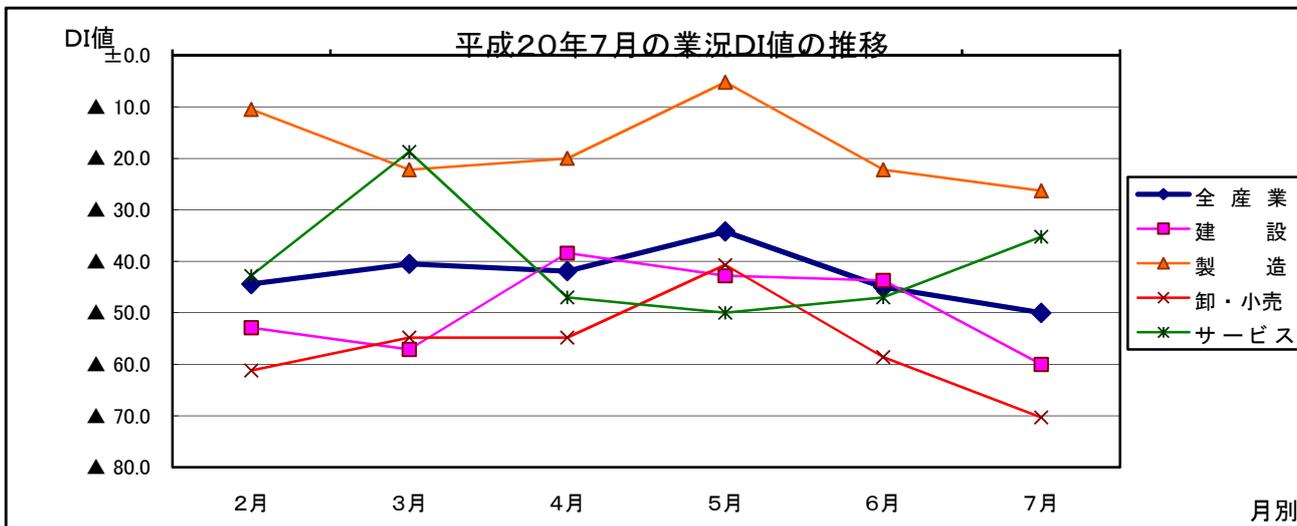
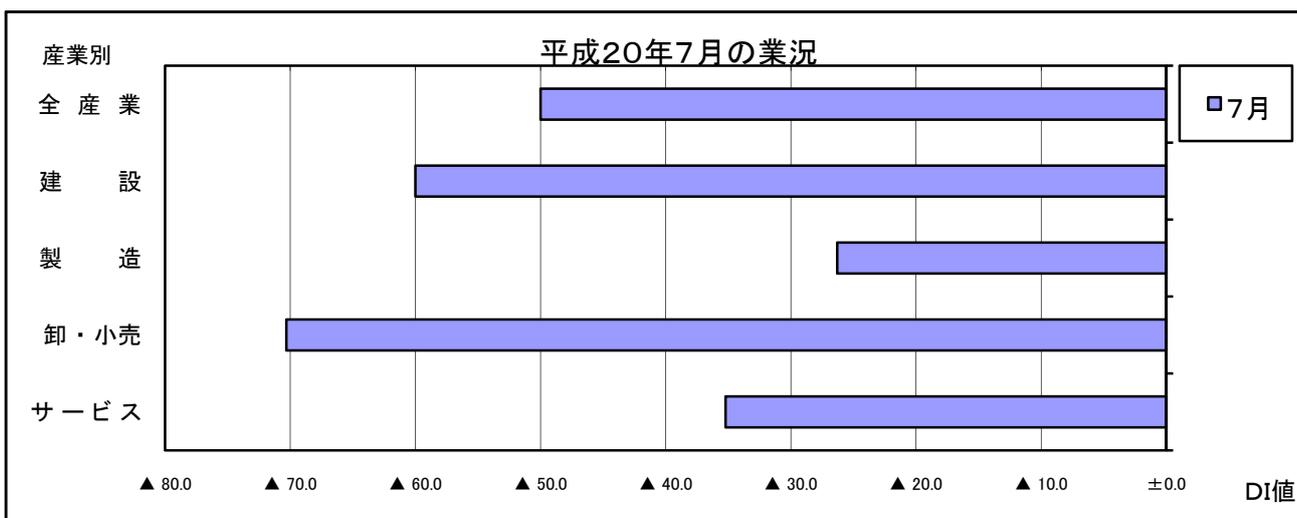
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲35.2(同▲47.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲43.7)、卸小売業▲70.3(同▲58.6)、製造業▲26.3(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲47.4(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が▲18.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種でマイナス幅が拡大する見通し。幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲6.2)、製造業▲31.5(同±0.0)、卸小売業▲59.2(同▲48.2)、サービス業▲52.9(同▲47.0)である。特に、建設業はマイナス幅が▲33.8ポイント、製造業はマイナス幅が▲31.5ポイント、と大幅に拡大する見通しである。

平成20年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲44.4	▲40.5	▲41.9	▲34.2	▲45.0	▲50.0	▲47.4(▲28.7)
建設	▲52.9	▲57.1	▲38.4	▲42.8	▲43.7	▲60.0	▲40.0(▲6.2)
製造	▲10.5	▲22.2	▲20.0	▲5.2	▲22.2	▲26.3	▲31.5(±0.0)
卸・小売	▲61.2	▲54.8	▲54.8	▲40.7	▲58.6	▲70.3	▲59.2(▲48.2)
サービス	▲42.8	▲18.7	▲47.0	▲50.0	▲47.0	▲35.2	▲52.9(▲47.0)



【平成20年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲23.7)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

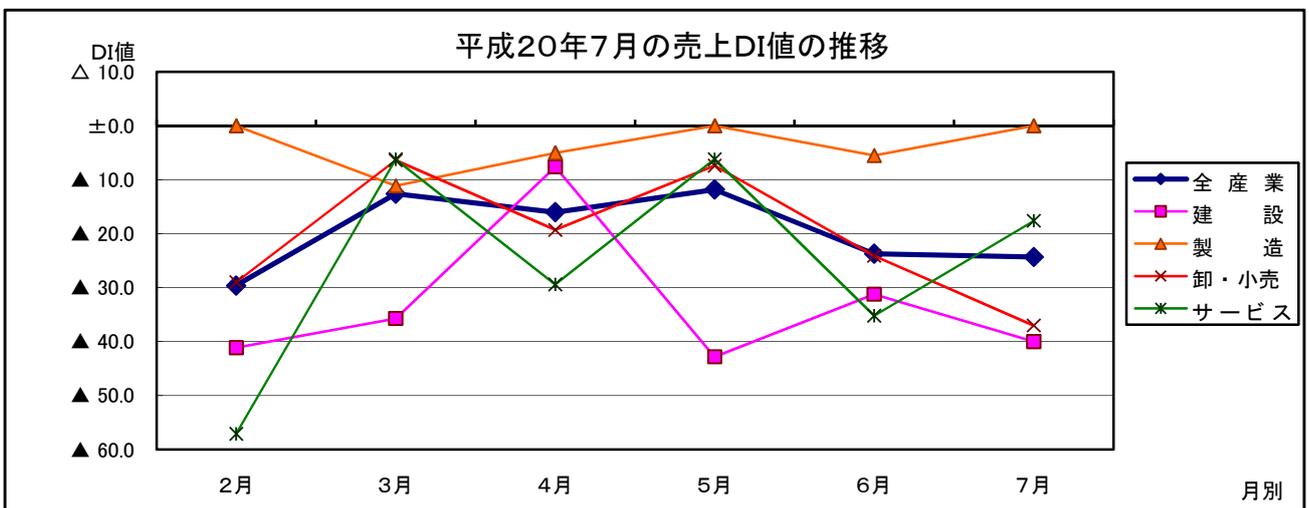
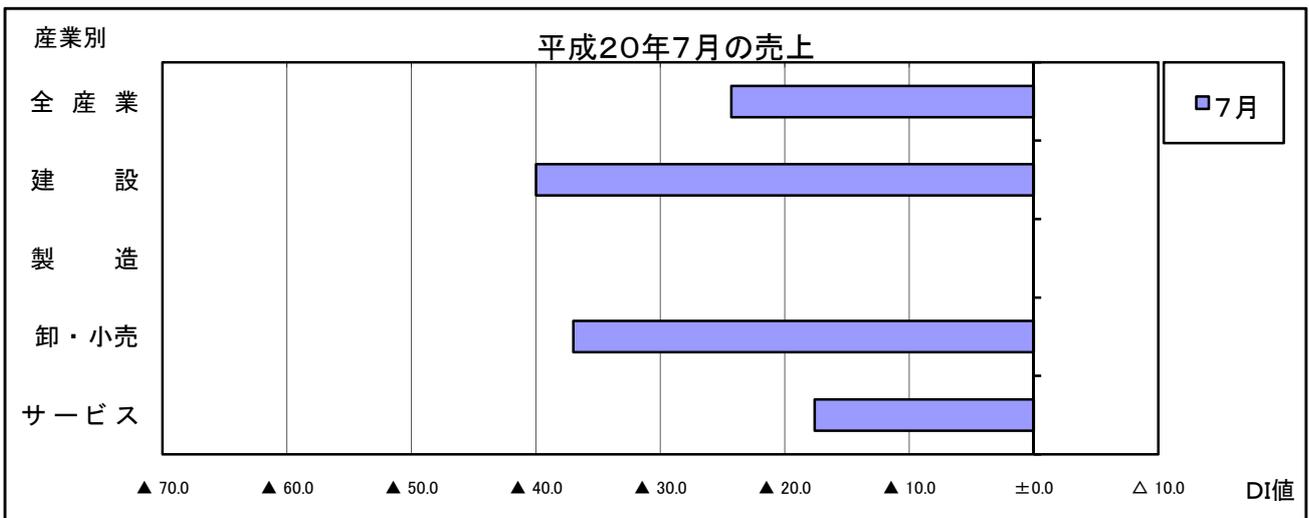
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲17.6(同▲35.2)、製造業±0.0(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.0(同▲24.1)、建設業▲40.0(同▲31.2)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.4(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が▲19.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種でマイナス幅が拡大する見通し。幅の大きい順に、卸小売業▲40.7(同▲13.7)、サービス業▲47.0(同▲23.5)、製造業▲5.2(同▲16.6)、建設業▲20.0(同▲18.7)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲27.0ポイント、サービス業はマイナス幅が▲23.5ポイント、製造業はマイナス幅が▲21.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲29.6	▲12.6	▲16.0	▲11.8	▲23.7	▲24.3	▲29.4(▲10.0)
建設	▲41.1	▲35.7	▲7.6	▲42.8	▲31.2	▲40.0	▲20.0(▲18.7)
製造	±0.0	▲11.1	▲5.0	±0.0	▲5.5	±0.0	▲5.2(△16.6)
卸・小売	▲29.0	▲6.4	▲19.3	▲7.4	▲24.1	▲37.0	▲40.7(▲13.7)
サービス	▲57.1	▲6.2	▲29.4	▲6.2	▲35.2	▲17.6	▲47.0(▲23.5)



【平成20年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.0(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大した。

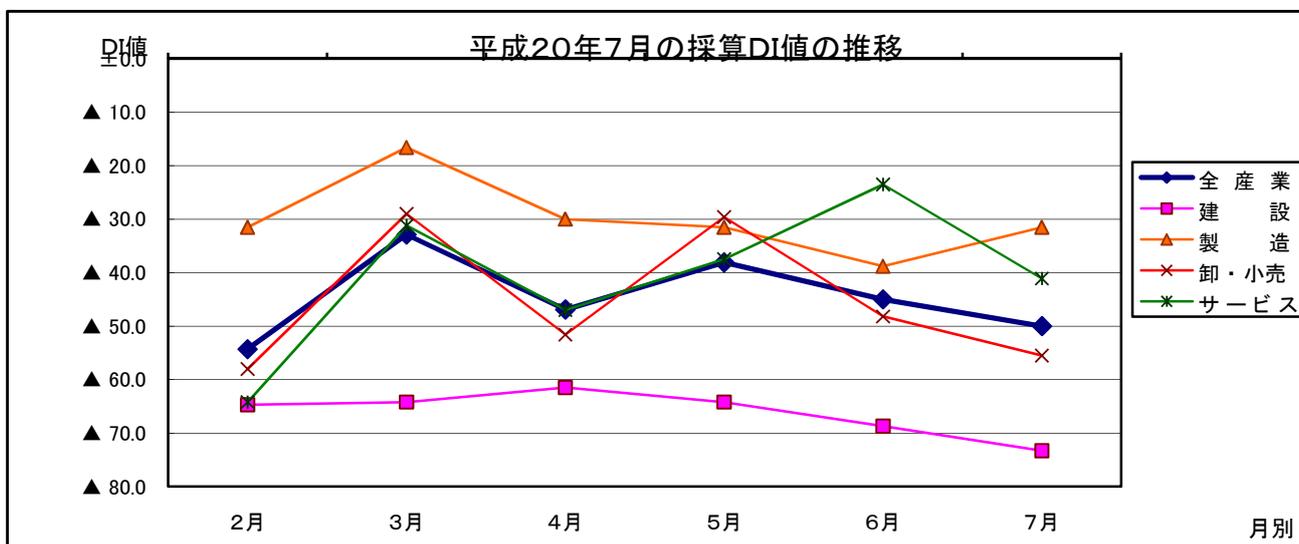
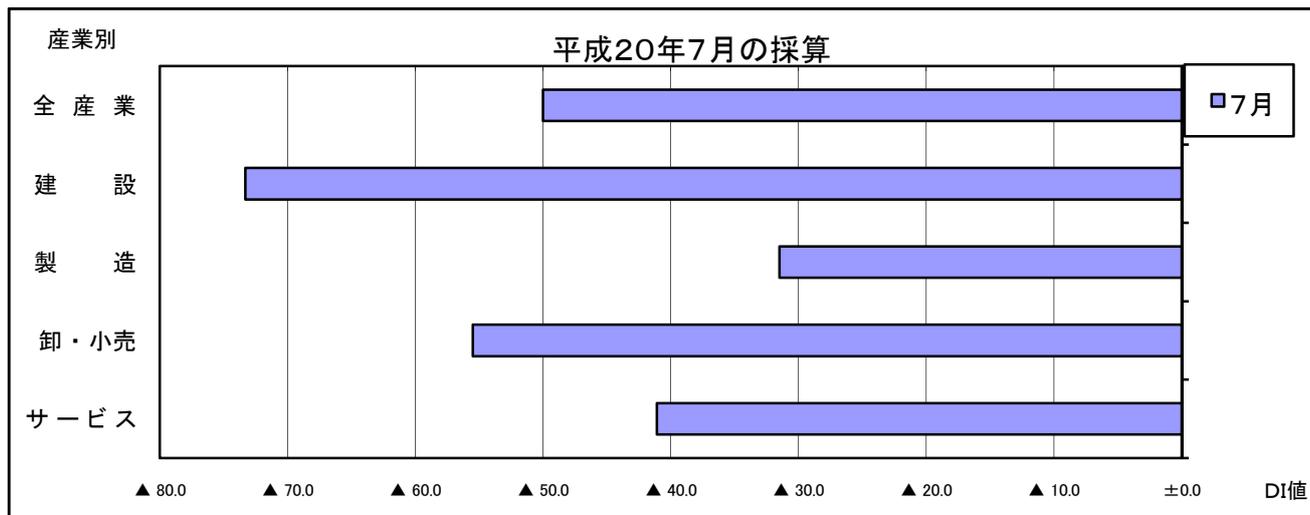
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲31.5(同▲38.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.1(同▲23.5)、卸小売業▲55.5(同▲48.2)、建設業▲73.3(同▲68.7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42.3(前月水準▲27.5)となり、マイナス幅が▲14.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種でマイナス幅が拡大する見通し。幅の大きい順に、サービス業▲52.9(同▲23.5)、建設業▲40.0(同▲25.0)、製造業▲31.5(同▲16.6)、卸小売業▲44.4(同▲37.9)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲29.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲54.3	▲32.9	▲46.9	▲38.1	▲45.0	▲50.0	▲42.3(▲27.5)
建設	▲64.7	▲64.2	▲61.5	▲64.2	▲68.7	▲73.3	▲40.0(▲25.0)
製造	▲31.5	▲16.6	▲30.0	▲31.5	▲38.8	▲31.5	▲31.5(▲16.6)
卸・小売	▲58.0	▲29.0	▲51.6	▲29.6	▲48.2	▲55.5	▲44.4(▲37.9)
サービス	▲64.2	▲31.2	▲47.0	▲37.5	▲23.5	▲41.1	▲52.9(▲23.5)



【平成20年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲74.3(前月水準▲77.5)となり、マイナス幅が△3.2ポイント縮小した。

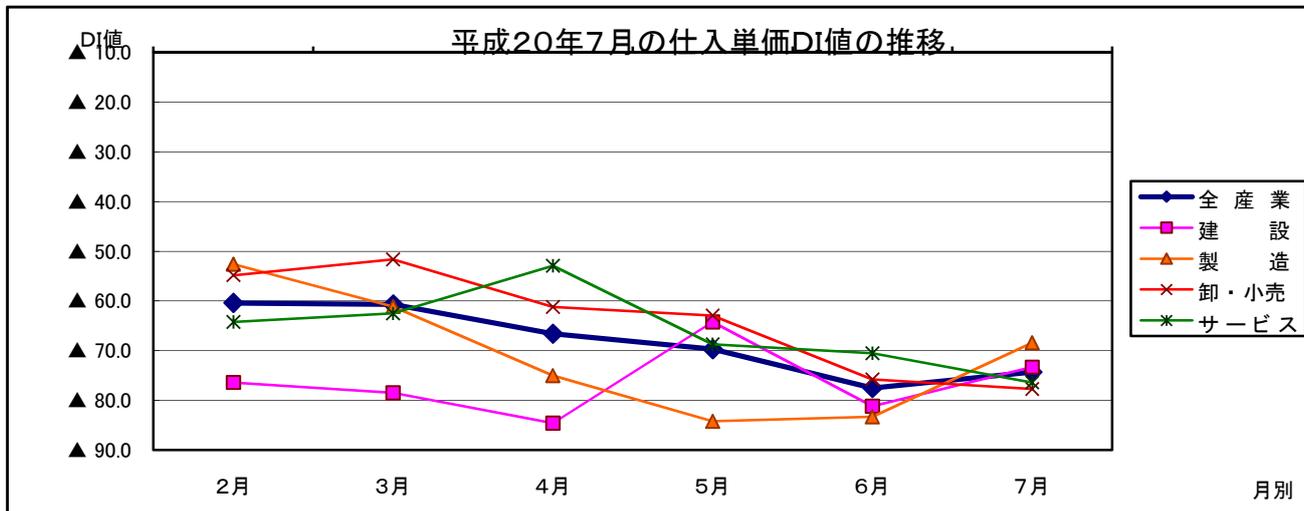
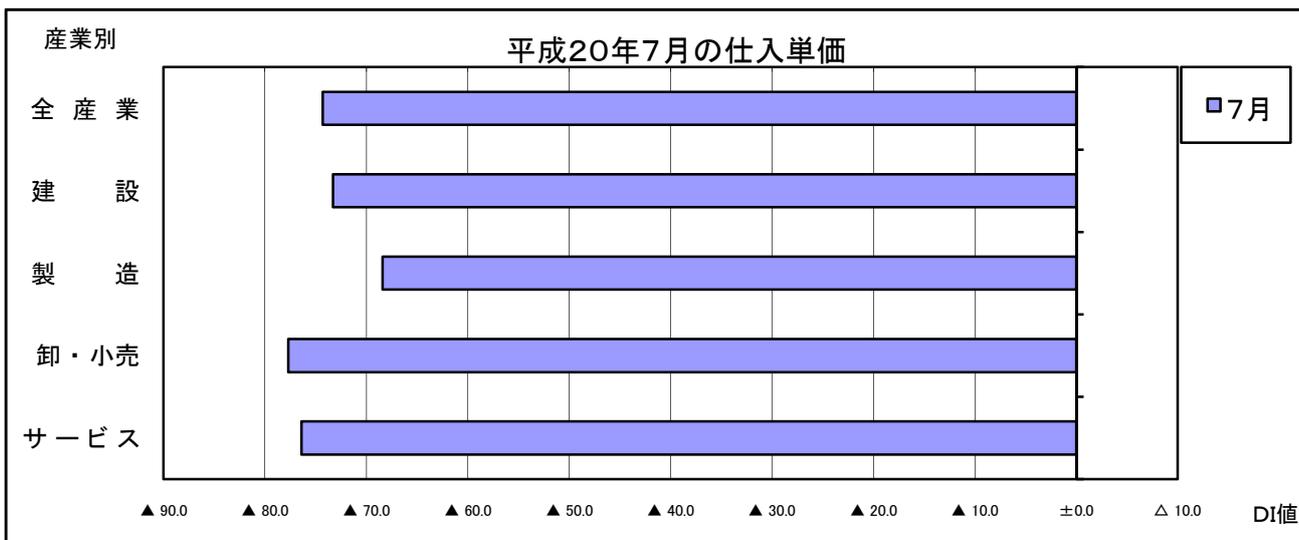
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲68.4(同▲83.3)、建設業▲73.3(同▲81.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲76.4(同▲70.5)、卸小売業▲77.7(同▲75.8)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲67.9(前月水準▲66.2)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲68.4(同▲72.2)、卸小売業▲66.6(同▲68.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲50.0)、サービス業▲76.4(同▲70.5)である。

平成20年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲60.4	▲60.7	▲66.6	▲69.7	▲77.5	▲74.3	▲67.9(▲66.2)
建設	▲76.4	▲78.5	▲84.6	▲64.2	▲81.2	▲73.3	▲60.0(▲50.0)
製造	▲52.6	▲61.1	▲75.0	▲84.2	▲83.3	▲68.4	▲68.4(▲72.2)
卸・小売	▲54.8	▲51.6	▲61.2	▲62.9	▲75.8	▲77.7	▲66.6(▲68.9)
サービス	▲64.2	▲62.5	▲52.9	▲68.7	▲70.5	▲76.4	▲76.4(▲70.5)



【平成20年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△6.4(前月水準△8.7)となり、プラス幅が▲2.3ポイント縮小した。

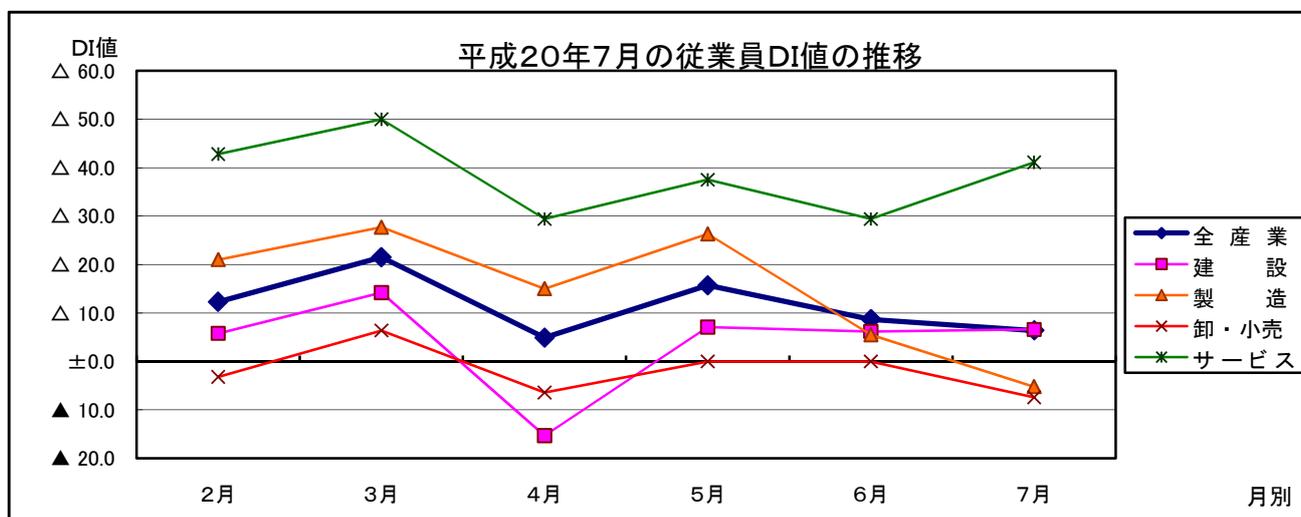
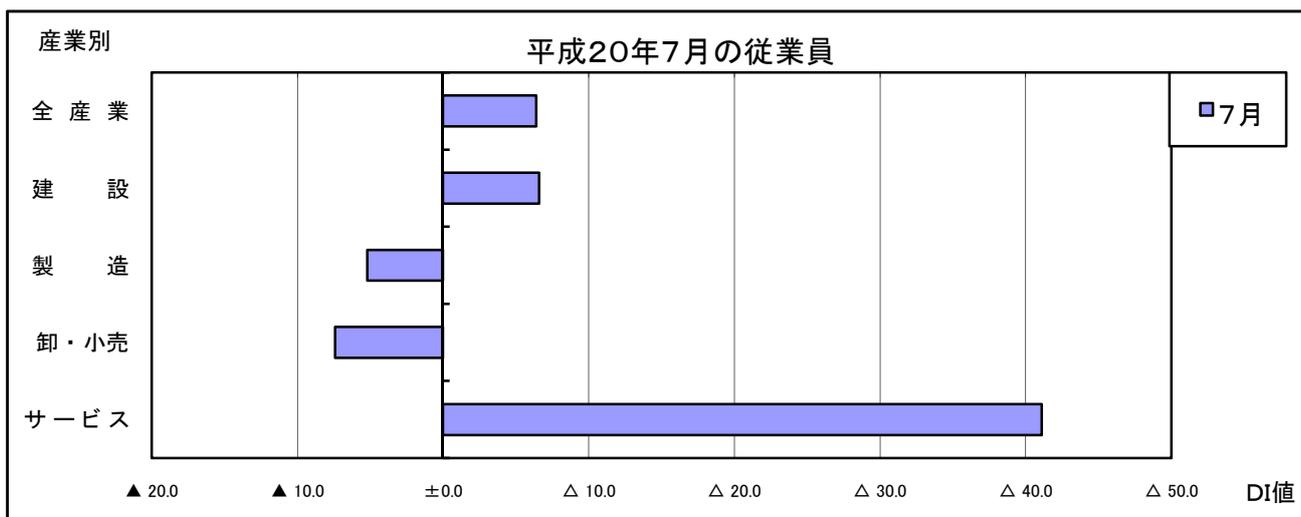
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△41.1(同△29.4)、建設業△6.6(同△6.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.2(同△5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲7.4(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△1.2(前月水準△6.2)となり、プラス幅が▲5.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△6.6(同△6.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△23.5(同△35.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.2(同±0.0)、卸小売業▲11.1(同▲6.8)である。

平成20年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△ 12.3	△ 21.5	△ 4.9	△ 15.7	△ 8.7	△ 6.4	△ 1.2 ( △ 6.2 )
建設	△ 5.8	△ 14.2	▲ 15.3	△ 7.1	△ 6.2	△ 6.6	△ 6.6 ( △ 6.2 )
製造	△ 21.0	△ 27.7	△ 15.0	△ 26.3	△ 5.5	▲ 5.2	▲ 5.2 ( ±0.0 )
卸・小売	▲ 3.2	△ 6.4	▲ 6.4	±0.0	±0.0	▲ 7.4	▲ 11.1 ( ▲ 6.8 )
サービス	△ 42.8	△ 50.0	△ 29.4	△ 37.5	△ 29.4	△ 41.1	△ 23.5 ( △ 35.2 )



【平成20年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.5(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大した。

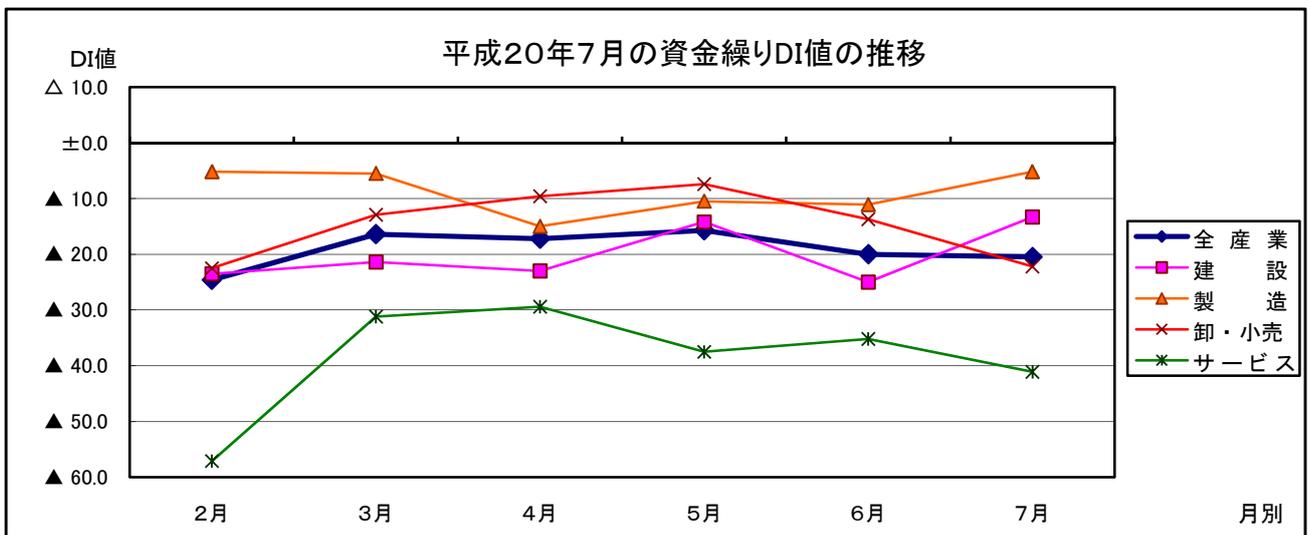
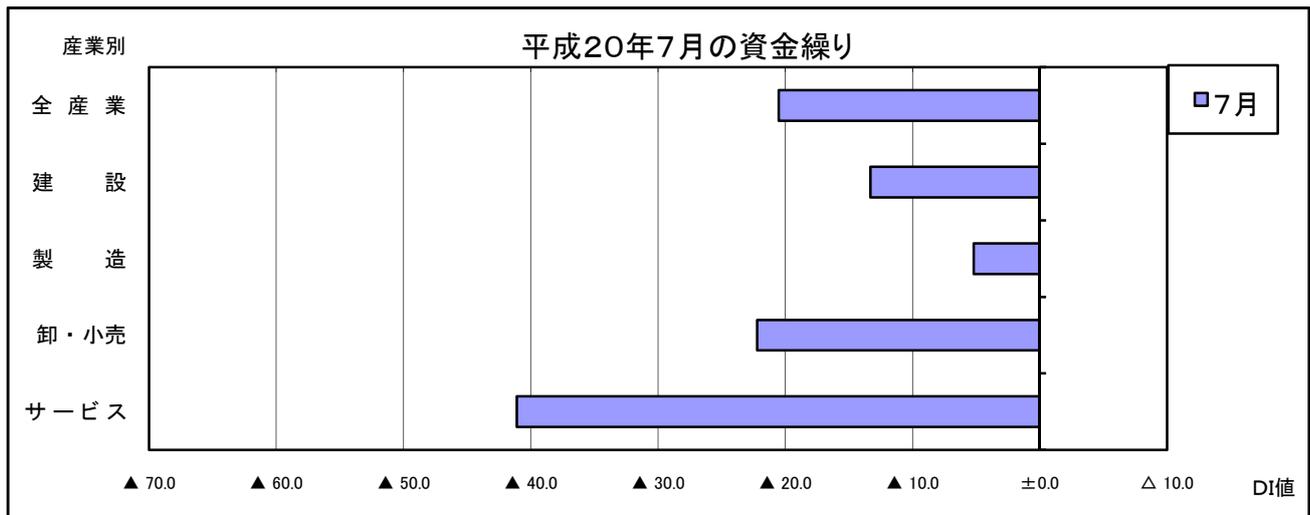
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同▲25.0)、製造業▲5.2(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲22.2(同▲13.7)、サービス業▲41.1(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.9(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲15.7(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.1(同▲23.5)、建設業▲26.6(同▲18.7)、卸小売業▲25.9(同▲20.6)である。

平成20年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲24.6	▲16.4	▲17.2	▲15.7	▲20.0	▲20.5	▲26.9(▲20.0)
建設	▲23.5	▲21.4	▲23.0	▲14.2	▲25.0	▲13.3	▲26.6(▲18.7)
製造	▲5.2	▲5.5	▲15.0	▲10.5	▲11.1	▲5.2	▲15.7(▲16.6)
卸・小売	▲22.5	▲12.9	▲9.6	▲7.4	▲13.7	▲22.2	▲25.9(▲20.6)
サービス	▲57.1	▲31.2	▲29.4	▲37.5	▲35.2	▲41.1	▲41.1(▲23.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.3	▲ 29.4	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 74.3	▲ 67.9	△ 6.4	△ 1.2
建設	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 73.3	▲ 40.0	▲ 73.3	▲ 60.0	△ 6.6	△ 6.6
製造	±0.0	▲ 5.2	▲ 31.5	▲ 31.5	▲ 68.4	▲ 68.4	▲ 5.2	▲ 5.2
卸・小売	▲ 37.0	▲ 40.7	▲ 55.5	▲ 44.4	▲ 77.7	▲ 66.6	▲ 7.4	▲ 11.1
サービス	▲ 17.6	▲ 47.0	▲ 41.1	▲ 52.9	▲ 76.4	▲ 76.4	△ 41.1	△ 23.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 50.0	▲ 47.4	▲ 20.5	▲ 26.9
建設	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 13.3	▲ 26.6
製造	▲ 26.3	▲ 31.5	▲ 5.2	▲ 15.7
卸・小売	▲ 70.3	▲ 59.2	▲ 22.2	▲ 25.9
サービス	▲ 35.2	▲ 52.9	▲ 41.1	▲ 41.1

【平成20年7月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	原油高騰のあおりを受け、全般的に景気は良くないようです。材料も少しずつ値上げ傾向になってお客様のご希望も良い品を安く、厳しい条件になりつつあります。これからは「エコな家＝経済的な家」を目指すしか…	・原油高騰 ・原材料高騰	一般土木建築工事業
	夏休み中に学校改修工事が集中します。炎天下での作業になるので、体調が心配されます。無理しすぎない工程を望みます	・学校工事集中	板金・金物工事業
	一般に仕事の量が少なくなってきた	・受注減少	その他の職別工事業
	本体業者の受注が減少している。ガソリン他の値上がりによって新築発注を控える傾向	・受注減少 ・原油高騰	管工事業(さく井を除く)
	マスコミ報道などにより、先行不安ということで、買い控え傾向がつつよくなっているように思われます。特に住関係、リフォーム等は計画して資金があるのに、将来の生活資金として使わない人が多いようです	・先行き不安 ・買い控え傾向	家庭用機械器具小売業
	すべてにおいて悪化してきている。ガソリン・他の(材料以外)経費にも影響があり、改善されるのか予想がつかない。	・業績悪化 ・多方面への影響	電気工事業
製造	今年も10月からの値上げアナウンスあり。気を引き締めてかかる	・再値上げ	紙製容器製造業
	業界内でも先行きの景気に警戒感が強くなってきている。原材料高の状態が続いたまま景気が後退していくと最悪のパターンになる	・先行き不安 ・原材料高騰	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	建築士法改正がスタートを3年後にひかえ、建築士法の第1回試験が7月に実施。建築業界全体が設備関係も含めて暗黒の世界へ進み、中小企業が生きてゆく道が見えない状況となっていくのでは	・建築基準法改正 ・先行き不安	その他の設備工事業
	先月より一層鋳物鋼材の値上げ要求が多くなっている。当社の加工外注委託先情報として、以前に比べ仕事の入り方が少なくなっている目いっぱい感は薄い。「宮城地震」の影響は当社では思ったほど出なかった。	・鋼材値上げ ・受注減少	その他の機械・同部分品製造業
食品	食品表示・産地偽装の問題は食品全体に大きな影響を与えていると思われれます。ただ、メーカーや販売者だけが悪いのではなく、指導する側(農水・厚生)の指導の不一致、そしてマスコミの報道の仕方などにも問題があると思われれます	・食品偽装問題 ・指導の不一致	食料・飲料卸売業
	原材料価格の高騰の影響は大変大きなものになってきました。これからもきちんと商品の価値を伝える努力が必要に思われれます。また、小売業としてよりよい接客が求められてきています。	・原材料高騰 ・接客努力	各種食料品小売業
	野菜・果実ともに、出荷コスト高、一方消費動向については、一般食品の値上げや、原油高により購買意欲が減退、先行き不透明感から、慎重姿勢が強まって足踏み状態が続いている。収益の悪化、最悪の状況である。	・出荷コスト高 ・食料品値上げ ・原油高騰 ・購買意欲低下 ・先行き不安 ・収益悪化	食料・飲料卸売業
	ほとんどの材料が値上げ、洋菓子店はつらい	・原材料高騰	菓子・パン小売業

【平成20年7月の業種別業界内トピックス】

卸小売	周辺大型店の増床(予定)や出店の影響が「日曜雑貨手芸」用品の充実を図る店舗や、リニューアルを図るお店が多い(柏北西部)。一般の小売専門店もかなり厳しい状況です。当社も小物グッズの販売が激減で厳しい	・大型店の影響 ・厳しい業況	その他の飲食料点小売業
	水事業に参入している販売業者は良好。2タイプあり、アルカリイオン整水器(年1度カートリッジ交換)量販店での販売なし。宅配サービス=電話一本で配送、サーバーをレンタル。オール電化・同業他社・天然ガスへの移行、下がらない原油、究極は資金力と販売力につきる。		燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	ここ1~2年の間に柏市内の書店の売場面積が3倍以上に増加、売上の減少傾向が止まらず	・売上減少 ・競争激化	書籍・文房具小売業
	必要不可欠な買物以外には財布を開かないようで、客単価が低くなっております。食料品等の値上がりが大きく影響しているようです。ガソリン価格の値上げも響いております。	・客単価低下 ・食料品値上げ ・原油高騰	花、植木小売業
	気温が高く、見切りに入った夏物衣料品が多少売れているが、全体的には良くない。秋には大型店の開店(増床)があり、さらには、諸物価の値上がりが消費意欲を後退させており、先行き見通しが立たない。	・夏物衣料 ・物価上昇 ・購買意欲低下	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	7月度、月初は3日から開催のセール前の買い控えがあったものの、売上客数ともに好調な出足となった。セールでは近隣競合SCと期間が重なったことから、苦戦を強いられた結果、期間中累計売上昨対101.8%と昨年は上回る事ができたものの、期待したほどの大きな伸びは見られなかった。セール明けの再セールでは徐々に夏日となってきたことから、好調な推移となっている。月末にかけては晩夏物のアプローチを強化し、売上伸	セール開催	各種商品小売業
	ガソリン高や値上げ等で個人消費が低迷している。消費者は必要な物しか買わない	・原油高騰 ・購買意欲低下	書籍・文房具小売業
サービス	原油価格の変化はすぐに影響のせる業種ではありませんが、少しずつ材料等の価格や量に現れて来つつあります。	・原油高騰	理容業
	仕入れ単価の上昇による販売価格を上げるタイミングが難しい。高値でも早く安定してほしい	・仕入れ上昇 ・価格転嫁困難	食堂・レストラン
	サミットの影響、原油高から宿泊需要減少。宴会については開催日の月づれなどがあり、需要増減はわかりづらい部分はあるが、原材料価格の高騰から利益減	・原油高騰 ・宿泊減少 ・原材料高騰 ・利益減	ホテル
	当地域に同業店が多いため、店の特色や、内容で努力しているが、人手不足には大変苦労している。人材の低下、不足に大変苦慮している先行に大変不安を感じている。	・人手不足 ・先行き不安	そば・うどん店
	先月6月との比較は、宴会暑気払いの予約が増えた。ただし、前年とは若干ではありますが、仕入れ等単価上昇があり。今回3月にメニュー改定において、ボリュームの見直し、アルコール類の値上げ等はお客様に理解されたと考えています	・仕入れ上昇 ・価格転嫁	酒場・ビヤホール
医療品器材消耗品の値上がりが始まりました	・消耗品値上げ	獣医業	

## 【平成20年7月の多い景気キーワード】

### ◎原材料原油高騰

- ・ 原油高騰のあおりを受け、全般的に景気は良くない。材料も少しずつ値上げ傾向になってお客様のご希望も良い品を安く、厳しい条件になりつつある。これからは「エコな家＝経済的な家」を目指すしか… (一般土木建築工事業)
- ・ 原材料高の状態が続いたまま景気が後退していくと最悪のパターンになる (ゴムベルト・ゴムホース・工業)
- ・ 原材料価格の高騰の影響は大変大きなものになってきた。これからもきちんと商品の価値を伝える努力が必要に思う。また、小売業としてよりよい接客が求められてきている。 (各種食料品小売業)
- ・ ほとんどの材料が値上げ、洋菓子店はつらい (菓子・パン小売業)
- ・ 必要不可欠な買物以外には財布を開かないようで、客単価が低くなっており、食料品等の値上がりが大きく影響しているようです。ガソリン価格の値上げも響いております。 (花、植木小売業)
- ・ 原油価格の変化はすぐに影響のする業種ではないが、少しずつ材料等の価格や量に現れて来つつある。 (理容業)
- ・ サミットの影響、原油高から宿泊需要減少。宴会については開催日の月づれなどがあり、需要増減はわかりづらい部分はあるが、原材料価格の高騰 (ホテル)

### ◎先行き不安

- ・ マスコミ報道などにより、先行不安ということで、買い控え傾向がよくなってきているように思う。特に住関係、リフォーム等は計画して資金があるのに、将来の生活資金として使わない人が多いようである。 (家庭用機械器具小売業)
- ・ 建築業界全体が設備関係も含めて暗黒の世界へ進み、中小企業が生きてゆく道が見えない状況となっていくのでは (その他の設備工事業)
- ・ 人材の低下、不足に大変苦慮している先行に大変不安を感じている。 (そば・うどん店)

### ◎購買意欲低下

- ・ 野菜・果実ともに、出荷コスト高、一方消費動向については、一般食品の値上げや、原油高により購買意欲が減退、先行き不透明感から、慎重姿勢が強まって足踏み状態が続いている。収益の悪化、最悪の状況である。 (食料・飲料卸売業)
- ・ 気温が高く、見切りに入った夏物衣料品が多少売れているが、全体的には良くない。秋には大型店の開店(増床)があり、さらには、諸物価の値上がりが消費意欲を後退させており、先行き見通しが立たない。 (その他の各種商品小売業)
- ・ ガソリン高や値上げ等で個人消費が低迷している。消費者は必要な物しか買わない (書籍・文房具小売業)

## 平成20年7月のCCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.0に対し、「CCI-LOBO」が▲60.5で、マイナス幅が10.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、すべてにおいて10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI-LOBO」が▲44.6で、マイナス幅が20.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が、全ての業種において良くなっており、建設業・製造業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.0に対し、「CCI-LOBO」が▲55.9で、マイナス幅が5.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業・サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲74.3に対し、「CCI-LOBO」が▲59.4で、マイナス幅が14.9ポイント大きい。すべての業種において「柏の景気」の方が悪くなっており、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△6.4に対し、「CCI-LOBO」が▲9.0で、15.4ポイント良い。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業とサービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.5に対し、「CCI-LOBO」が▲37.8で、マイナス幅が17.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業と製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。

# 平成20年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 50.0	 60.0	 26.3	 70.3	 35.2
CCI LOBO	 60.5	 73.2	 61.3	 54.4	 56.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 24.3	 40.0	 ±0.0	 37.0	 17.6
CCI LOBO	 44.6	 62.6	 39.7	 39.9	 44.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 50.0	 73.3	 31.5	 55.5	 41.1
CCI LOBO	 55.9	 70.1	 58.1	 46.8	 57.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 74.3	 73.3	 68.4	 77.7	 76.4
CCI LOBO	 59.4	 70.4	 65.4	 52.8	 57.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.4	 6.6	 5.2	 7.4	 41.1
CCI LOBO	 9.0	 28.0	 9.8	 2.6	 1.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.5	 13.3	 5.2	 22.2	 41.1
CCI LOBO	 37.8	 52.3	 36.0	 31.2	 39.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成20年7月17日～24日  
 調査対象：全国の404商工会議所が2580業種  
 組合等にヒアリング調査を実施。

### 全国の業況

#### 業況DIは6年ぶりにマイナス60台へ、仕入単価DIは最悪の水準で推移

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(56.0)よりマイナス幅が4.5ポイント拡大し、60.5となり、02年2月以来、6年ぶりにマイナス60台を記録した。

産業別の業況DIは、小売を除く4業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては製造など一部に好調(鉄鋼、機械関係の受注増加等)、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声がかかり多い。

【建設業】「公共事業の伸び悩みで廃業、倒産する事業所も発生」(一般事業)、「過度な価格競争により、中小建設業者を中心にコスト上昇分を価格転嫁できず、厳しい状況」(一般工業業)、「公共工事の減少や仕入単価の上昇により、収益が激減」(建築工事業)

【製造業】「原材料価格の相次ぐ高騰に対し、販売価格への転

嫁をすぐに行うことは難しく、収益が減少」(家具製造業)、「改正建築基準法の影響や公共工事の減少により、受注を確保できない状況」(製材木製品製造業)、「機械加工関係は高稼働だが、原油・原材料価格の高騰により採算面では厳しい状況」(一般産業用機械製造業)

【卸売業】「売上・採算の悪化に加え、取引先企業への値上げ交渉は暗礁に乗り上げるなど厳しい状況」(衣服・日用品卸売業)、「漁獲量の減少や魚価の上昇など、厳しい状況が続いている」(農畜産水産物卸売業)、「原油価格高騰の影響により、食品原材料、資材等の卸価格も上昇しているが、価格への転嫁は難しく、収益が減少」(農畜産水産物卸売業)

【小売業】「原油価格高騰の影響により、車での来客数が減少、一方で商品輸送における物流コストは増加」(百貨店)、「諸物価の高騰に加え、猛暑の影響で来客数が減少し、売上も悪化」(商店街)、「夏物バーゲン」は売上、来客数とも出足は好調も、期待したほどの伸びは見られず」(商店街)

【サービス業】「8月から酒類の値上げが予定されており、今後は更なる採算の悪化を懸念」

(一般飲食店)、「家族連れやグループでの来客数が減少、夏休み・お盆休みの予約も少なく、売上は悪化の見込み」(旅館)、「個人タクシーの売上は過去最悪の状態、廃業者が増加」(他事業サービス)

### 七月のキーワード

#### 更なる悪化への懸念

各業種から業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が多く寄せられている。建設からは、「公共工事の減少やダンピング受注など、建設業界における将来の不安要素はしばらく続く見込み」(蕨・一般工業業)、「受注の減少傾向に変化が無い上、先行きの見通しにも好材料が見つからない状況」(新潟・電気工事業)とのコメント、製造からは、「現在の原油・原材料価格の高騰が続けば利益を確保できず、資金繰りへの悪影響も危惧」(相模原・金属加工機械製造業)との声も寄せられている。また、サービスからも、「個人消費の減速に伴い、今後の閉店・休業の発生を懸念」(和歌山・旅館)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇  
 各業種から原材料価格の高騰に伴う仕入コストの更なる上昇を訴える声が多く寄せられている。建設からは、「鉄鋼・金

属など資材価格は引き続き高騰しており、収益を圧迫」(静岡・一般事業)、「資材価格の高騰によるコスト上昇分を工事金額に反映させたいが、そうすると受注を確保できず、厳しい状況」(秋田・管工事業)とのコメント、製造からは、「仕入価格が倍増、これ以上の価格高騰は死活問題」(伊達・他の食料品製造業)、「輸入木製材の高騰に加え、船運賃、製材加工、流通コスト等の上昇は、全ての面でマイナス影響」(酒田・製材木製器製造業)との声も寄せられている。また、小売からも、「仕入単価と水道光熱費等の経費が増加し、収益は減少」(泉大津・百貨店)といったコメントが寄せられている。

### 消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品をはじめ各種商品の物価上昇に対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。製造からは、「燃料・原材料価格の高騰に伴う販売価格の上昇は、消費意欲への影響が大きく、売上が悪化」(水戸・パン・菓子製造業)とのコメント。また、小売からは、「諸物価の上昇により、お中元商品の売上減少が顕著」(大分・百貨店)、「食料品価格等の高騰が消費者の購買意欲に悪影響を及ぼし、夏物バーゲンも

例年の盛り上がり以上に欠ける」(豊橋・商店街)とのコメント、サービスからは、「ガソリン価格の高騰に伴い、外食を控える傾向が強まり売上が悪化」(伊達・食堂・レストラン)、「例年7月は大幅に売上が上昇するが、今年は厳しい状況」(松戸・美容)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲47.5	▲57.7	▲40.3	▲57.7	▲49.1	▲42.7
3月	▲46.9	▲59.4	▲41.3	▲47.3	▲48.4	▲43.3
4月	▲50.4	▲64.6	▲43.1	▲53.6	▲52.8	▲44.4
5月	▲52.9	▲65.0	▲49.0	▲49.1	▲52.6	▲50.6
6月	▲56.0	▲67.7	▲52.4	▲52.6	▲57.7	▲51.2
7月	60.5	73.2	61.3	64.5	54.4	56.8
見通し	▲58.4	▲66.4	▲55.1	▲57.8	▲58.0	▲57.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI